

2015年12月20日クリスマス礼拝

クリスマスの光

加藤 享

【聖書】ルカによる福音書2章1～20節

◆イエスの誕生

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

◆羊飼いと天使

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、MARIA とヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかし、MARIA はこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

【序】受け継がれて来た光

クリスマス、おめでとうございます。 一緒にクリスマス礼拝を守れますことを、心から嬉しく思います。クリスマスは、世界の救い主イエス・キリストのお誕生をお祝いする時ですね。でも小さい子どもたちにとっては、サンタクースのおじいさんが、今年はどんなプレゼントを持ってきてくれるのか、その方が大きな楽しみかもしれませんね。でもね、世界の救い主イエスさまのお誕生をお祝いすることは、私たちにとってとても大切なことなのです。「**神さま、**

イエスさまのお誕生、有難うございます」と喜び感謝する心を持つ人になってください。

今から26年前の1989年11月に、ドイツを西と東に分断していた象徴的な**ベルリンの壁**が打ち破られました。ソヴィエト連邦の共産党独裁体制が崩れて、その支配下にあった**東ヨーロッパの共産圏諸国**が次々と変わっていきました。

その時私が興味を抱いたのは、この**歴史的な大変化**が一番よく表れたのが、**クリスマスの祝い方**だったと、TVや新聞がそろって報道したことでした。どこへ行っても以前とは打って変わり、華やかな飾りつけがなされ、**明かりが灯り**、人々は会う人ごとに「**クリスマスおめでとう**」の挨拶を交わし始めたそうです。そして教会の**クリスマス礼拝**に大勢集まりました。特に**若い人**の多いのが印象的だったそうです。

革命以来「**宗教は阿片だ**」とレッテルをはられ、70年以上にわたって弾圧され、洗脳教育が施されてきたはずなのに、**クリスマスの灯火**は、人々の心に灯り続け、**受け継がれて来た**のです。**世界の暗黒**を明るくする**大切な光**を求める心が、人々の心に秘められているのです。

〔1〕 貧しい羊飼いが一番先に

キリストは今から2020年ほど前に、当時の世界の片隅、ユダヤのベツレヘムでお生まれになりました。その時、近くの野原で夜通し羊の番をしていた**貧しい羊飼**たちに、天使が現れて、こう言いました。「恐れるな。わたしは、**民全体**に与えられる**大きな喜び**を告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって**飼**い葉桶の中に寝ている**乳飲み子**を見つけるであろう。これがあなたがたへの**しるし**である。」

天使は羊飼たちに、**民全体**、即ち世界の**全ての人**にとって大きな喜びとなる**救い主**がお生まれになったという**大きな喜び**と、その救い主を見つける**目じるし**が、家畜小屋の飼い葉桶に寝かされている赤ん坊だと、告げたのでした。世界を救う救い主が、立派な御殿にではなく、家畜の餌箱をベッドにして寝かされているとは、**おかしい話**です。今日、戦乱の地で逃げまどう人々は別として、どんなに貧しい家の子どもでも、ロバや牛や羊のいる汚い家畜小屋で生まれることはないでしょう。ところが**キリスト**は、この世の中でも**最も貧しく卑しい生まれ方**をなさったというのです。これは一体どうしたことでしょうか？

それは、**第一**に、救い主キリストが、**どんな人でも近づいていけるお方**だということを示しています。**羊飼**たちは、他の人が暖かい家の中で眠っている夜中に、野原で羊の番をします。野獣が羊を襲えば、杖を振るって命がけで守らなければなりません。着ている物も汗にまみれて臭かったことでしょう。でも家畜小屋で誕生して下さったので、そのような**貧しい羊飼**たちが、**一番先に**救い主キリストに会うことが出来ました。

またキリストは、**どんなに汚れた心の中にも誕生して下さる**救い主だということです。私は札幌教会で30年余働かせていただきましたが、札幌刑務所で死刑になった方の書き遺した詩を読みました。

“イエス・キリストのお誕生は
遠い昔の遠いベツレヘムの出来事ではありません
この**独房**の中でも、お誕生してくれました
私の体は家畜小屋 **私の心**は飼葉桶
私の罪を贖って 愛と永遠の命を満たすため
救い主イエスは 今日 **私の中**に生まれてくれました
クリスマスは 大きな喜びの時なのです “

この方は、飼葉桶のような**汚れた心**で、幾人もの人を殺してしまった自分のような者の所へも、イエスさまが来て下さったと感謝したのでした。イエスさまがお住みになれない心などないのです。イエスさまはどんな人をも救おうとして、**一番卑しい家畜小屋**で生まれ、飼葉桶をベッドにして、身を横たえて、安らかに休んでくださったのでした。

〔2〕貧しさを恐れる心

飼葉桶のしるしについて次に言えることは、**貧乏への恐れ**から救って下さる救い主ということです。私たちは貧乏が嫌いです。安楽な暮らしに慣れた者には、貧しくなることが恐ろしくなります。物質的なことで一喜一憂し、手持ちのお金の量で、安心したり不安になったりします。

もしも親として、わが子に良い部屋、おいしい食べ物を与えることが出来なくなったら、また人並みの教育や稽古ごとをさせてやれなくなったら、自分が惨めで耐えられなくなるでしょう。厳しい競争社会では、能率の上がらぬ劣った人間は、役立たずと切り捨てられます。ですから子育ての失敗作、**貧しいわが子**を持つことが、惨めで恐いのです。

ところがイエス・キリストは、家畜小屋の汚い飼い葉桶から人生を始められました。そして優しい愛と健全な理知を兼ね備えた**素晴らしい人格**へと成長されたのでした。そして今日にいたってもなお、幾千億の人々に、豊かな心の祝福をもたらし続けておられます。

貧しくても子どもは健やかに育ち、良い学校に行けなくても、英知に満ちた人になれるのです。貧しくても平和な家庭を作れるのです。私たちを幸福にするものは、金や能力や健康ではありません。**愛**です。

【結】 神は愛である

神さまとは、どのようなお方なのでしょうか。「**神は愛である**」これが聖書のメッセージです。ではどのような愛なのでしょうか。「私を見た者は神を見たのである」とイエス・キリストはおっしゃいました。私たちの人生は誕生で始まり、死をもって閉じます。その全生涯が私という人間を物語ります。

イエス・キリストの生涯は**家畜小屋で始まり**ました。そこに現された神の愛を、ただ今語りました。キリストの生涯は**十字架の死で終わり**ました。それは権力者たちの自己保身、権力欲、妬みによる死刑執行でした。しかしキリストは、その不義を正義の剣で打ちのめすのではなく、その罪を一切我が身に引き受けて、赦しを祈りつつ死んでいかれました。

ご自分の命をもって、自分を殺す者の**罪を贖う死**を遂げられたことで、敵をも愛する**神の究極の愛**をお示しになりました。そして神さまは、この愛が死んで朽ち果てるものではないことを、墓の中からの**復活**をもってお現しになったのです。**神の愛の究極的な勝利**です。このように、神さまが**愛の神さま**であることを私たちにはっきりと示して下さる**救い主イエス・キリスト**のご生涯、その始まりが**クリスマス**なのです。

私たち夫婦も 83 才を過ぎて確実に衰えてきました。これから先、どのような日々が待ちうけているのでしょうか。何一つ出来なくなり、一切をお世話になる身となるでしょう。でも飼い葉桶の中に安らかに身を横たえてくださったイエスさまが、**貧しい私の中にも**共に居て下さるのです。神さまの愛に包まれて、心安らかに**全てをお任せ**いたしましょう。皆さん方も、飼い葉桶の救い主を、ご自分の救い主として心にお迎えし、愛の神さまと共に、平安と喜びをもって、感謝しつつ生きてくださいますように。

祈ります：神さま、あなたは、汚い家畜小屋の中でお生まれになったイエスさまとなって、私たちの所に来て下さいました。ですから貧しい羊飼いたちが、一番最初に救い主イエスさまを、身近に礼拝することができました。あなたは、飼い葉桶に身を置いてくださるお方なのですね。どうぞ飼い葉桶のような私の内にお住み下さり、あなたの愛と平安を満たして下さいますように、お願いいたします。暗い闇が世界を覆っています。でもクリスマスの光が輝いています。クリスマスの光を証して、愛し合って生きていく者にして下さい。イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン